

平成19年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

多摩川（御岳渓谷）の水質

御岳渓谷は青梅市を代表する観光地で、多摩川の清流が観光客ばかりでなく、釣り、カヌー等を楽しむ人達も惹きつけます。この渓谷を流れる多摩川の水質を、市販の簡易水質調査用具（パックテスト）を使い、折にふれ調べています。その結果の一例を、以下の表にまとめてみました。調査地点は、表（調査地）にある上流部（杣の小橋上流、多摩川本流）、下流部（楓橋上流、多摩川本流）と、その間で多摩川に流れ込む流入水2ヶ所（流入A、流入B）の4ヶ所です。調査項目は、PH（水素イオン濃度）、COD（化学的酸素消費量）、NH₄（アンモニウム）、NO₂（亜硝酸）、NO₃（硝酸）、PO₄（リン酸）の6項目としました。

調査地	調査日時	PH	COD	NH ₄	NO ₂	NO ₃	PO ₄
上流部	H19. 07. 03/11:15	7.5	1.0	0.1	0	1.0	0
流入A	H19. 07. 03/10:40	7.0	7.0	0.2	0.2	3.0	1.0
流入B	H19. 07. 03/10:00	7.2	2.0	0.2	0.05	1.5	0.2
下流部	H19. 07. 03/09:15	7.3	2.0	0.1	0	1.0	0.05

※CODの単位:mg/L (ppm)

※NH₄、NO₂、NO₃、PO₄についてはイオン量表示。単位:mg/L (ppm)

多摩川本流（上流部、下流部）の値については、特に問題は無く、きれいな水の状態といえそうです。COD:1～2は、イワナやヤマメも生息可能、河川の富栄養化の原因となるNH₄、NO₂、NO₃、PO₄も低い値です。他日のデータもほぼ同様の結果が出ています。ところが、本流に流れ込む流入水2ヶ所は、かなり汚れた状態を示しています。この2ヶ所の水流は、腐敗臭を漂わせ、水の泡立ちも見られるなど外見的にも汚れが見て取れます。流入AのCOD:7は、河川の下流部なみで、コイやフナも5を越えると住み難くなるといわれます。NO₂は化学的な性質が不安定なためもあり、河川の上流部ではごく少ないのが普通ですが、流入Aの0.2は汚染源がごく近くにあることを示唆する値です（NO₂は食品添加物としても使用されます）。

他日の結果では、流入A、流入B地点とも、 NO_2 や NO_3 が上表の値の3倍近くになる場合もあります。こうした流入水の外見や成分から、家庭排水がそのまま本流へ流れ込んでいる可能性が考えられます。ただし、多摩川への流入水のどれもが、流入A、流入Bのように汚れているというわけではありません。河川の富栄養化の原因となる NO_3 、 PO_4 等は、自然状態でも存在します。その状態以上の量が、汚染物質ということになります。

御岳溪谷の多摩川の水はきれいなのですが、これは本流に流れ込む水がきれいだからではなく、本流の流れに支流の汚れを浄化する能力（自浄能力）が、まだあるからだといえそうです。実際に多摩川の水を調べてみると、御岳溪谷以外の場所でも、こうした状態を確認することができます。

（文責：櫻岡 幸治）